

ナゴヤをつなげる 30 人 第 3 期 Day3 レポート

2021 年 10 月 18 日、名古屋市スポーツ市民局地域振興課主催の「ナゴヤをつなげる 30 人」第 3 期 Day3 が開催されました。

「ナゴヤをつなげる 30 人」は、名古屋に関係する企業、NPO、大学、行政など、多様なセクターから集った有志が、組織やセクターの枠を越え、まるで学校の同級生や組織の同期生のようにフラットにつながりながら、名古屋をより良いまちにしていく取り組みです。集まったメンバーがつながりを深めながら、課題解決のための活動を約半年間かけて立案・実行していきます。今年度はより地域課題に密着するため、中村区と中川区にフォーカスして開催しています。

Day3 は本年度初の対面開催が可能になりました。場所は名古屋市中村区のウインクあいちの会議室です。前回大まかにできたチーム分けから、改めて 4 つのチームが確定。次回 day4 のオープンセッションに向けて準備が進められました。

まずは Slow Innovation 株式会社 加生氏のファシリテーションのもと、前回分けたチームの振り返りをした後、一人ひとりのチェックインからスタートします。自身の近況等のほか、現時点での取り組みたいテーマについて語っていきます。

その後前回オンラインでも行ったマグネットテーブルを再び実施しました。マグネットテーブルは、現時点で取り組みたいことを紙に書き、それぞれ紙が見えるように掲げながら部屋を歩き回り、できるだけ多くの人と紙を見せ合い、チームを作っていく手法です。「似たことを書いている人」、「一緒になると化学反応を起こせそうな人」、「自分で書いたものを捨ててもいいと思える案を書いている人」、「できるだけいつも関わりがない人」とチームを組むことがポイントです。

会場を歩き回り、取り組みたいテーマを見せ合い、対話をしながら最終的に 4 つのチームができあがりました。

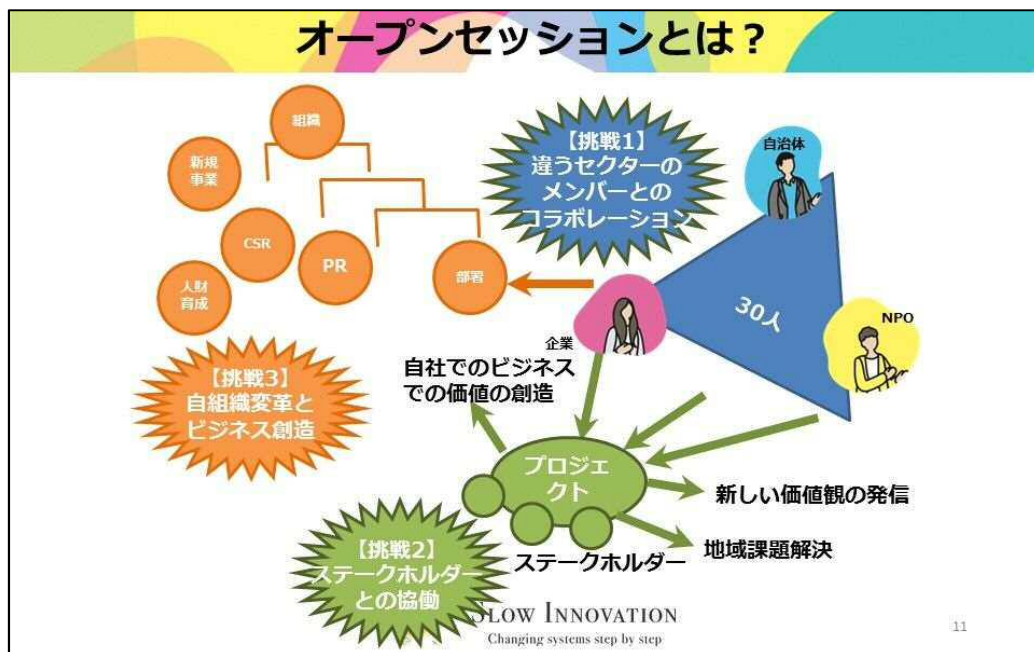
- ・多文化理解を通じた国際課題と地域課題の発見に取り組む「ナゴローバル」チーム
- ・中村区・中川区をフィールドにマイクロツーリズムを通じた地域魅力の発信をする「中中ツアーズ」チーム
- ・空き家活用とコミュニティ再生をテーマに取り組む「映画ドラえもんニラの駄菓子屋研究所」チーム
- ・コンビニを通じた地域課題の発見に取り組む「FCC」

チーム名についても集まったメンバーでブレインストーミングを行い決定しました。



休憩後、次回 Day4 に向けた準備が進められました。オープンセッションとは、各テーマに関連のあるステークホルダーを巻き込んだ対話の場を設け、「話を聞きたい」「一緒に考えたい」「プロジェクトに巻き込みたい」と思う人を招待します。新たなプロジェクト創出に向けて、多様な視点からヒントを得る重要な場となります。そのオープンセッションについて、開催目的や誰を招待するか、招いたステークホルダーにどんな「問い」を投げかけるか、チームで設計を考えます。

ファシリテーターの加生氏から「パワフルな問い」づくりの大切さについて説明がありました。多様なステークホルダーが「一緒に考えたい!」と思える問いをたて、非当事者が当事者になることが大切です。「渋谷をつなげる 30 人」や前年度の「ナゴヤをつなげる 30 人」での問いも参考に、多くの人にとって「一緒に考えたくなる問い」について考えながら、“Story of Self”を、“Story of Us”そして“Story of Now”にしていく問いをたてるためのワークが進められました。



まずは「問い」についてブレインストーミングを行いました。具体的な企画を提案して Yes or No を求めるような問いではなく、「想い」を共有する「問い」・「可能性」を考える「問い」・「アイデア」を出し合う「問い」をチームで考えます。

続いて、ステークホルダーのブレインストーミングを行いました。オープンセッションで、どんな人を招いて語り合いたいかを検討しました。



例えば、多文化理解の促進を目指すチームでは様々な年代、外国人、働く人を招いて、日常にある理解できないこと、ギャップを共有する場にしてはどうか。中村区・中川区でのマイクロツーリズムについて考えるチームでは、住民や大学生、商店街やその地域で働く人々を招いて、名古屋の魅力や自分のまちの好きなところを話し合うのはどうか。空き家活用チームでは土地を持っている人、空き家を使いたい人はだれか。コンビニ活用チームではコンビニ店員や利用者、学校や福祉分野の関係者を招いて、便利とは何か。またコンビニの可能性について探っていくなど、様々な検討がなされました。

その後、各チームで検討したオープンセッションの方向性を発表しました。加生氏と、今回オブザーバーとして参加いただいている中部電力株式会社の浦野氏からのフィードバックもいただきました。今回の Day3 で決めたことが最終決定ではなく、Day4 のオープンセッションへ向けて各チームでさらに議論が深められます。



次回 Day4 で、どんな「問い」で対話が進められていくのかとても楽しみです。オープンセッションで新たな可能性を模索することで、プロジェクトが動き出します。